



レポート ビルダー ヘルプ リリース 5.2



IBM Rational Change レポート ビルダ ヘルプ

リリース 5.2

---

本書を使用する前に、必ず[特記事項](#)の内容をお読みください。

この版の内容は、新しい版で特に指摘がない限り、**IBM Rational Change** バージョン **5.2**（製品番号：5724V87）以降のすべてのリリースと修正版に適用されます。

© **Copyright IBM Corporation 2000, 2009**

US Government Users Restricted Rights-Use, duplication or disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract with IBM Corp.

---

# 目次

<b>はじめに</b>	<b>1</b>
Rational Change レポート ビルダ インターフェイスの概要 .....	2
ダイアログ パネル .....	3
Rational Change セッションの開始 .....	4
ヘルプの使用法.....	5
IBM Rational ソフトウェア サポートへの問い合わせ.....	6
前提条件 .....	7
問題報告について .....	8
<b>特記事項</b>	<b>11</b>
<b>レポートの作成</b>	<b>15</b>
レポートの作成.....	16
クエリの定義.....	18
レポート一般プロパティの定義.....	19
使用するテンプレートの選択.....	20
ヘッダーの定義.....	21
レポート本文の定義.....	22
フッターの定義.....	24
チャートをレポートに追加.....	25
グループ化の定義.....	26
ソートの定義.....	28
関係レポートの作成.....	29
関係レポートの定義.....	30
関係レポート一般プロパティの定義.....	31
レポートのインストール.....	32
レポート作成例.....	33
レポートの作成 (例).....	34
クエリの定義 (例).....	35
一般プロパティの定義 (例).....	37
使用するテンプレートの選択 (例).....	39
ヘッダーの定義 (例).....	40
本文の定義 (例).....	42
フッターの定義 (例).....	44

---

チャートをレポートに追加 (例) .....	45
グループ化の定義 (例) .....	46
ソートの定義 (例) .....	47
関係レポートの作成 (例) .....	48
関係レポートの定義 (例) .....	49
関係レポート一般プロパティの定義 (例) .....	50
関係レポートヘッダーの定義 (例) .....	51
関係レポート本文の定義 (例) .....	52
レポートの保存とインストール (例) .....	53
<b>レポートニングの詳細</b> .....	<b>55</b>
メトリック操作について .....	56
<b>索引</b> .....	<b>59</b>

# はじめに

IBM® Rational® Change は、IBM® Rational® Synergy と統合された、ウェブベースの総合変更  
依頼管理システムです。

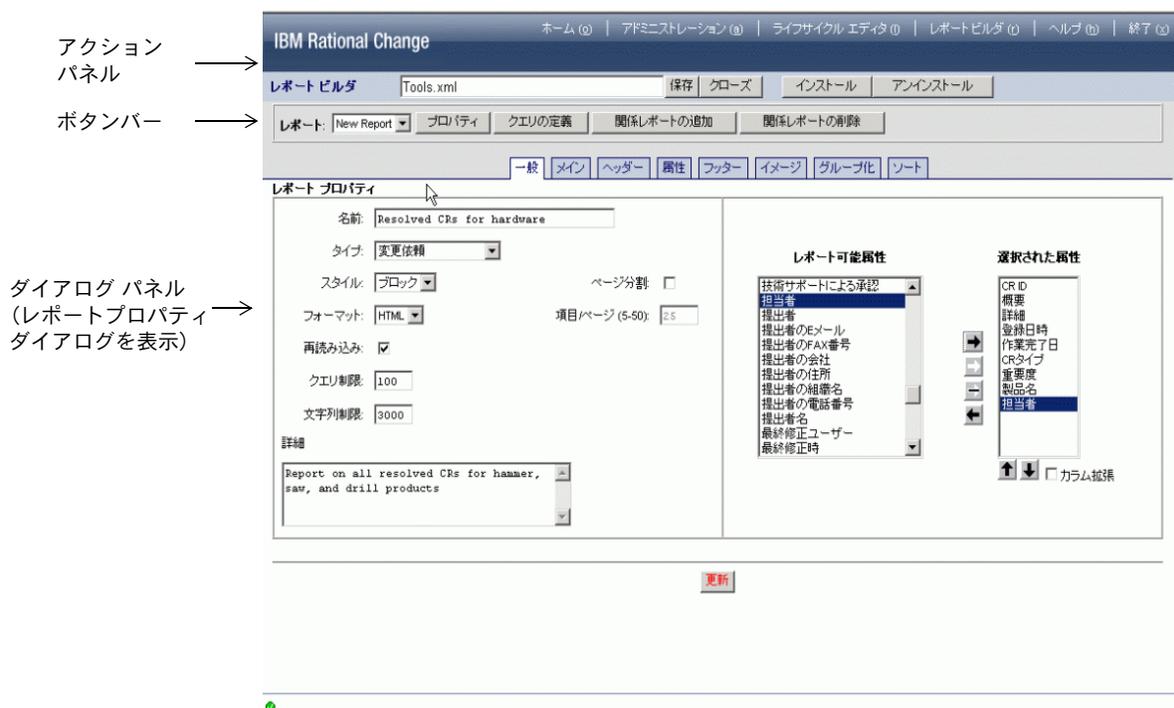
レポートビルダ (*ReportBuilder*) ロールで Rational Change を使用するために必要な基本情報に  
ついては、以下のページを参照してください。

- [Rational Change レポート ビルダ インターフェイスの概要](#)
- [Rational Change セッションの開始](#)
- [ヘルプの使用方法](#)

## Rational Change レポートビルダ インターフェイスの概要

Rational Change インターフェイスは、[アクションパネル](#)と、[ボタンバー](#)、およびアクションパネル ボタンをクリックすると変わる[ダイアログパネル](#)で構成されています。

**レポートビルダ** ボタンをクリックし、レポートを選択した後の Rational Change のウィンドウを示します。



### アクションパネル

アクションパネルは、Rational Change ウィンドウの上部にあり、操作（レポートビルダなど）はすべてここから開始します。リンクをクリックすると、操作に対応したダイアログボックスがダイアログパネルに表示されます。

*ReportBuilder* ロールでは、アクションパネルの以下の操作を使用できます。

#### ホーム リンク

このリンクをクリックして、Rational Change ウェルカム ページに戻ります。

### レポート ビルダ リンク

このリンクをクリックし、構成可能なコンポーネントを使用して Rational Change レポートを生成します。

### ヘルプ リンク

このリンクをクリックして、自身のロールに対応するヘルプを表示します。

### 終了リンク

このリンクをクリックして、Rational Change からログアウトします。この操作を行うと、Rational Change セッションを終了し、セッションのリソースを解放します。

### ボタンバー

#### ヘルプ リンク

状況依存ヘルプを表示するには、各ダイアログボックスのボタンバーの ? (疑問符) ヘルプリンクをクリックしてください。

他のボタンは、表示されるダイアログに応じて表示されます。

### ダイアログ パネル

ダイアログ パネルは Rational Change ウィンドウのアクションパネルを除いた部分で、ダイアログボックスとほとんどの操作の結果がここに表示されます。

以下のマークにより、操作の状態が示されます。



緑色のチェックマークは操作が成功したことを示します。



赤色の X は操作が失敗したことを示します。



i (情報) の文字は、ダイアログボックスの内容を読んで結果を確認しなければならないことを示します。

失敗を示すアイコンが表示された場合、失敗の理由も表示されます。修正方法がわからない場合は、Rational Change アドミニストレータにお問い合わせください。

## Rational Change セッションの開始

セッションを開始するには、以下のことが必要です。

- サポートされているブラウザを使用していること
- インストールした Rational Change の URL がわかっていること
- 自分の持つユーザー ID が、現在使用している Rational Change ログイン ロールに関連付けられた Rational Synergy ロールを少なくとも 1 つ持っていること

以下の操作でセッションを開始します。

1. ブラウザを表示します。
2. Rational Change サーバーの URL へ移動します。

URL は `http://hostname:port_number/context/user` というような形式になります。

例 : `http://eagle:8600/change/user`

3. **Rational Change ログイン** ウィンドウで、**ユーザー ID** とパスワードを入力します。
4. **ログイン** をクリックします。

**注記** : 以下の手順では、Rational Change にログインしたことがあるかどうかで、表示されるログインオプションが少し異なります。

5. **データベース** リストで、使用するデータベースをクリックします。
6. **ロール** リストで *ReportBuilder* をクリックします。
7. **接続** をクリックします。

Rational Change ウィンドウが表示されます。[アクションパネル](#)は、ウィンドウの上部の小さい枠で、現在のロールで実行できる操作のリンクがあります。[ダイアログパネル](#)は、ウィンドウでアクションパネルを除いた部分にある大きなフレームです。

ダイアログパネルにウェルカムメッセージが表示されます。ウェルカム ページは、管理チェックリストを示し、Rational Change の簡単な紹介を行います。

---

## ヘルプの使用方法

レポートビルダヘルプには、*ReportBuilder* ロールを使用してログインした場合の、**Rational Change** の設定および使用に関する情報が含まれます。ヘルプは HTML 形式になっていますので、サポートされているブラウザを使用してどのプラットフォームでも表示できます。ヘルプでは、フレームを使用して、システム内の情報をすばやく継続的に検索できます。

ヘルプの設定を格納し、検索するためには、ブラウザの設定で **Cookie** を使用できるようにしておく必要があります。**Cookie** が無効になっていると、ヘルプシステムの起動時に、最後に選択したタブ ページを開いたり、**Rational Synergy** ウェブサイトを参照したりすることができません。

ダイアログボックスのボタンバーにある **ヘルプ** ボタンをクリックして、状況依存ヘルプを表示します。ヘルプのさまざまなトピックを表示するには、本文中や目次ページ、索引にあるリンクをクリックします。

ヘルプは、アクションパネルの **ヘルプ** ボタンをクリックしても表示できます。

## IBM Rational ソフトウェア サポートへの問い合わせ

お手持ちのリソースで、問題が解決されない場合は、IBM® Rational® ソフトウェア・サポートに連絡してください。IBM® Rational® ソフトウェア・サポートでは、製品の問題解決に関する支援を行っています。

## 前提条件

IBM Rational ソフトウェア・サポートに問題を送信するには、有効な Passport Advantage® ソフトウェア保守契約が必要です。パスポート・アドバンテージは、IBM の包括的ソフトウェア・ライセンスおよびソフトウェア保守（製品のアップグレードおよび技術支援）オファリングです。次のサイトからオンラインでパスポート・アドバンテージに登録できます。

<http://www.ibm.com/software/lotus/passportadvantage/howtoenroll.htm>

- パスポート・アドバンテージについて詳しくは、パスポート・アドバンテージ FAQ ([http://www.ibm.com/software/lotus/passportadvantage/brochures\\_faqs\\_quickguides.html](http://www.ibm.com/software/lotus/passportadvantage/brochures_faqs_quickguides.html)) にアクセスしてください。
- さらに支援が必要な場合は、IBM 担当員に連絡してください。

問題をオンラインで（IBM Web サイトから）IBM Rational ソフトウェア・サポートに送信するには、さらに以下が必要です。

- IBM Support Web サイトの登録ユーザーであること。登録について詳しくは、<http://www-01.ibm.com/software/support/> を参照してください。
- 許可された呼び出し元としてサービス要求ツールにリストされていること。

## 問題報告について

次のようにして、IBM Rational ソフトウェア・サポートに問題を送信します。

1. お客様の問題のビジネス・インパクトを判別します。IBM へ問題を報告する際は、重大度レベルを問われます。そのため、報告する問題とそのビジネス・インパクトを理解して、評価する必要があります。

重大度のレベルを決めるにあたっては、下表を参照してください。

重大度	説明
1	問題は <b>危機的な</b> ビジネス・インパクトを持ちます。プログラムを使用できず、業務に重大な影響が出ています。この状況には、即時に解決策が必要とされます。
2	問題は、 <b>重大な</b> ビジネス・インパクトを持ちます。プログラムは使用可能ですが、非常に限定されています。
3	問題は <b>部分的な</b> ビジネス・インパクトを持ちます。プログラムは使用可能ですが、比較的重要なでない(業務に大きな影響はない)機能が利用できません。
4	問題は <b>わずかな</b> ビジネス・インパクトを持ちます。問題による業務への影響がほとんどないか、問題に対する有効な回避策が実施済みです。

2. 問題を説明して、背景情報を収集します。IBM に問題を説明する際は、なるべく具体的に説明してください。IBM Rational ソフトウェア・サポートの専門家が、問題を解決するために効果的な支援をできるように、関連するすべての背景情報を含めてください。時間を節約するために、以下の質問の答えを用意してください。

- 問題の発生時に実行していたソフトウェア（複数可）のバージョンは何ですか？
- 次のオプションを使用して、正確な製品名とバージョンを判別することができます。
- **IBM Installation Manager** を始動して、「ファイル」> 「インストール済みパッケージの表示」を選択します。パッケージ・グループを展開し、パッケージを選択して、パッケージ名およびバージョン番号を確認します。
- 製品を始動して、「ヘルプ」> 「製品情報」をクリックし、オフライン名とバージョン番号を確認します。
- オペレーティング・システムおよびバージョン番号（サービス・パックまたはパッチを含む）は何ですか？
- 問題の症状に関連するログ、トレース、およびメッセージはありますか？
- 問題を再現できますか？再現できる場合は、問題を再現するための手順は何ですか？
- システムに変更を加えましたか？例えば、ハードウェア、オペレーティング・システム、ネットワーキング・ソフトウェア、またはその他のシステム・コンポーネントに変更を加えましたか？

- 現在、問題に対する何らかの回避策を使用していますか？使用している場合は、問題の報告時にその回避策も説明する準備をお願いします。
3. IBM Rational ソフトウェア・サポートに問題を送信します。次の方法で、IBM ソフトウェア・サポートに問題の送信ができます。
- オンラインの場合：IBM Rational ソフトウェア・サポートの Web サイト (<https://www.ibm.com/software/rational/support/>) にアクセスして、Rational サポート・タスク・ナビゲーターで「サービス要求を開く (Open Service Request)」をクリックします。エレクトロニック問題報告ツールを選択し、「問題管理レコード (PMR) (Problem Management Record (PMR))」を開き、問題についてご自身の言葉で正確に記述してください。
  - サービス要求を開く方法について詳しくは、<http://www.ibm.com/software/support/help.html> にアクセスしてください。
  - IBM Support Assistant を使用してオンラインのサービス要求を開くこともできます。詳しくは、<http://www-01.ibm.com/software/support/isa/faq.html> を参照してください。
  - 電話の場合：国または地域別の電話番号を調べるには、<http://www.ibm.com/planetwide/> の「IBM directory of worldwide contacts」で、お住まいの国名または地域名をクリックします。
  - IBM 担当員に依頼する場合：オンラインまたは電話で IBM Rational ソフトウェア・サポートにアクセスできない場合は、IBM 担当員に連絡してください。必要な場合は、お客さまに代わって、IBM 担当員がサービス要求を開くことができます。<http://www.ibm.com/planetwide/> で、各国への詳しい連絡先情報を検索できます。

送信した問題が、ソフトウェアの障害に関するものか、資料の欠落や不正確な記述によるものである場合は、IBM ソフトウェア・サポートはプログラム診断依頼書 (APAR) を作成します。APAR には、問題の詳細が記述されます。IBM ソフトウェア・サポートは可能な限り、APAR が解決されてフィックスが提供されるまでの間に実施できる回避策を提供します。IBM は、同一の問題を経験している他のユーザーが同じ解決方法を利用できるように、ソフトウェア・サポート Web サイトに解決済みの APAR を公開し、毎日更新しています。

はじめに

---

## 特記事項

© Copyright IBM Corporation 2000, 2009.

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

Copyright © 2008 by IBM Corporation.

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 ( 特許出願中のものを含む ) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について 実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 106-8711

東京都港区六本木 3-2-12

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示 もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムと その他のプログラム ( 本プログラムを含む ) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にす

ることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、製造元に連絡してください。

Intellectual Property Dept. for Rational Software |  
IBM Corporation  
1 Rogers Street  
Cambridge, Massachusetts 02142  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、**IBM** 所定のプログラム契約の契約条項、**IBM** プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、**IBM** より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

**IBM** 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。**IBM** は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。**IBM** 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

---

## サンプルコードの著作権

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。©Copyright IBM Corp. 2000 - 2009.

## 商標

IBM および関連の商標については、[www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml) をご覧ください。Microsoft、Windows、Windows 2003、Windows XP、Windows Vista および / またはその他の Microsoft 製品は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



# レポートの作成

レポートビルダを使用してCR、タスク、オブジェクトの追跡に必要なすべての情報を含むレポートを組み立てることができます。

レポートには、選択セットの項目に関する情報が含まれます。レポートの定義では、選択セットの生成に使用するクエリを定義し、各選択セット項目に対して表示する属性を選択し、レポートのレイアウトを定義する必要があります。関連付けられたCR、タスク、オブジェクトに関する情報を表示する関係レポートを定義することもできます。

*ReportBuilder* ロールでレポートを定義すると、そのレポートはユーザーインターフェイスを使用してログインしたユーザーのために**レポート** ダイアログボックス内の**システム** フォルダに表示されます。システムフォルダのレポート名の下にフォーマットも追加されます。

主要レポート定義操作について説明します。

- [レポートの作成](#)
- [関係レポートの作成](#)
- [レポートのインストール](#)

詳細な例については、[レポート作成例](#)を参照してください。

## レポートの作成

レポートビルダを使用してレポートを作成する方法の概略を、順を追って説明します。エラーを防止するために、以下のとおりの順序でステップを実行してください。

### 1. レポートの構成を計画します。

たとえば、使用している **CR Process** に基づき、**CR**、**タスク**、**オブジェクト**のいずれに関するレポートにするか、レポートにどの属性を選択するか、必要とする値がある場合はどの値を計算するかを決めます。レポートの構成要素を決めるには、レポートに含めたい情報を特定する必要があります。

たとえば、サブレポートまたは関係レポートが必要かどうかを決定します。サブレポートと関係レポートは、いずれもコンテキスト項目に関連する項目を参照できる点で似ています。たとえば、コンテキスト項目が **CR** ならば、その関連タスクを参照したい場合があるはずですが、ただし、サブレポートと関係レポートには、以下のような相違点があります。

- 関係レポートの定義は最上位レポートの定義とよく似ています。ただし、関係レポートは、個別クエリやメインプレートをもちません。一方、サブレポートはコンテキスト項目を参照する自身のクエリを持ちます。実はサブレポートは、前もって定義された別のレポートであり、単に他のレポートに含まれているだけです。
- 複数の関係レポートは互いに線状に連鎖させることができます。つまり、各項目は単独の関係項目を示すこととなります。サブレポートは複数の関連項目についてのレポートを可能とします。これは、1つのコンテキスト項目について複数のサブレポートを含めることにより行われます。

したがって、**CR** とそのタスクを表示する場合、関係レポートとサブレポートの両方が使用できます。ただし、**CR** をそのタスクおよび添付ファイルとともに表示するためには、サブレポートを使用すべきでしょう。関係レポートでは、どちらか1種類（タスクか、または添付ファイルのいずれかで、同時に両方は不可）しか表示できないからです。

### 2. [Rational Change セッションの開始](#)を行います。

### 3. プロセス パッケージをまだインストールしていない場合はインストールします。

プロセス パッケージには、レポート可能な **CR Process** の属性のリストがあります。プロセス パッケージをインストールしなければ、属性リストは空白です。詳細については、アドミン ヘルプを参照してください。

### 4. アクションパネルで、**レポートビルダ** をクリックします。

**レポートビルダ** ダイアログボックスが開き、**レポートファイルの選択**サブダイアログボックスが表示されます。

5. レポート名を選択するか、新しいレポート名を入力して新規レポートを作成します。  
既存のレポートを変更するには、**利用可能なレポート ファイル** リストでレポート名をクリックし、**編集**をクリックします。  
新規レポートを定義するには、新しいレポート名を**新規レポートファイル** ボックスに入力し (xml ファイル名拡張子も含めて)、**作成**をクリックします。  
レポート名を入力しない場合、**Rational Change** により、csReportX.xml という名前のレポートが作成されます。XX は **Rational Change** が既存レポート名を使用してレポートを作成するたびに増加していく数字です。
6. レポート対象とする CR、タスク、オブジェクトの選択セットを生成するためのクエリを定義します。  
ステップについては、[クエリの定義](#)を参照してください。
7. [レポート一般プロパティの定義](#)を行います。入力したレポート名はユーザーのシステムレポートおよびフォーマット リストに表示されます。
8. レポートで[使用するテンプレートの選択](#)を行います。
9. [ヘッダーの定義](#)を行います。これは、レポート ページ上部に表示される情報です。
10. [レポート本文の定義](#)を行います。これは、レポート本文に表示される情報です。
11. [フッターの定義](#)を行います。これは、レポート ページ下部に表示される情報です。
12. [チャートをレポートに追加](#)します。これは、レポートの下部に表示されます。
13. [グループ化の定義](#)を行います。グループにより、属性値に基づいてレポートがセクションに分類されます。各グループに対応するグラフィックも定義できます。
14. [ソートの定義](#)を行います。ソートによりレポートに項目を表示する順序が決定します。  
**注記：**ソートは常にグループ化の後に適用されます。したがって、グループ化に選択された属性はソート リストに表示されません。
15. [関係レポートの作成](#)を行います (オプション)。  
選択セットに、関連項目のある項目 (タスクが関連付けられている CR など) が含まれている場合、関連項目を表示する関係レポートを定義できます。
16. [レポートのインストール](#)を行います。  
詳細な例については、[レポート作成例](#)を参照してください。

## クエリの定義

レポートの内容を決めるクエリを定義する必要があります。

1. **レポートビルダ** ダイアログボックスで、**クエリの定義**をクリックします。

**クエリの定義**ダイアログボックスが表示されます。

2. クエリ条件を選択します。

被演算子、演算子、値を選択し、適切なボタンをクリックします。クエリが完成するまでこのステップを繰り返します。クエリ全体またはクエリの一部を**クエリ ストリング** ボックスに入力することもできます。

3. **更新**をクリックします。

### 関連トピック

- [クエリの定義 \(例\)](#)

## レポート一般プロパティの定義

レポート名や、レポートに表示するオブジェクトのタイプなど、レポート一般プロパティを定義する必要があります。

1. レポートビルダダイアログボックスで、**プロパティ**をクリックします。
2. **一般**タブをクリックします。
3. レポート一般プロパティを定義します。
  - a. **名前**ボックスにレポート名を入力します。

名前は**システム**レポートおよびフォーマットに表示されるため、わかりやすい名前を付けます。
  - b. **タイプ**リストで、**変更依頼**、**タスク**、**オブジェクト**のいずれかをクリックします。

この選択により、**レポート可能属性**リストの内容が決まります。
  - c. **スタイル**リストで、**ブロック**または**カラム**をクリックします。
  - d. **フォーマット**リストで、生成レポートのフォーマットをクリックします。
  - e. **詳細**ボックスに、レポートの説明を入力します。
4. ページ分割の設定を行います（オプション）。
  - a. **ページ分割**チェックボックスを選択します。

レポートを印刷したり一括遷移に使用したりする場合は、**ページ分割**チェックボックスを選択解除します。選択解除しないと、レポートの印刷やCRの遷移を1度に1ページずつ行わなければなりません。
  - b. **項目 / ページ**に項目数を入力します。
5. HTMLレポートに更新ボタンを含める場合は、**再読み込み**ボタンをクリックします。
6. **クエリ制限**ボックスに、検索する最大項目数を入力します。クエリの結果がこの制限を超えた場合、レポートは停止します。
7. **文字列制限**に、属性値の最大文字列長を入力します。この制限を超える属性値は切り捨てられます。
8. **レポート可能属性**リストで、レポートに表示する属性を選択します。

**problem\_number**、**problem\_synopsis**、**problem\_description**の各属性は、新規レポート作成時、自動的に**レポートの属性**リストに含められます。

属性の準備と設定の詳細については、**アドミンヘルプ**を参照してください。
9. **更新**をクリックします。

### 関連トピック

- [一般プロパティの定義 \(例\)](#)

## 使用するテンプレートの選択

レポートを組み立てるには、使用するテンプレートを選択する必要があります。テンプレートは、ヘッダー、本文、フッターなど、さまざまなレポート要素を表します。

1. **レポートビルダ** ダイアログボックスで、**プロパティ** をクリックします。
2. **メイン** タブをクリックします。
3. レポートに使用するテンプレートを選択します。
  - a. レポート上部にヘッダーを表示する場合は、**ヘッダー テンプレートを含む** チェックボックスを選択します。
  - b. レポート本文を定義するには、**属性テンプレートを含む** チェックボックスを選択します。
  - c. レポート下部にフッターを表示する場合は、**フッター テンプレートを含む** チェックボックスを選択します。
  - d. レポート下部にチャート図を表示する場合は、**イメージ テンプレートを含む** チェックボックスを選択します。
4. **更新** をクリックします。

## 関連トピック

- [使用するテンプレートの選択 \(例\)](#)

## ヘッダーの定義

レポートにヘッダーを入れる場合は、ヘッダーを定義します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、**プロパティ** をクリックします。
2. **ヘッダー** タブをクリックします。
3. ヘッダーレイアウトを定義します。
  - a. レポートのタイトルを表示する場合は、**タイトル** チェックボックスを選択します。  
タイトルは、レポート生成前にユーザーが付与する名前です。
  - b. 日付を表示する場合は、**日付** チェックボックスを選択します。
  - c. レポート項目数を表示する場合は、**オブジェクト カウント** チェックボックスを選択します。
  - d. レポート名を表示する場合は、**レポート名** チェックボックスを選択します。
  - e. クエリ名を表示する場合は、**クエリ名** チェックボックスを選択します。
  - f. クエリ文字列を表示する場合は、**クエリ スtring** チェックボックスを選択します。
4. ヘッダーメトリック操作を定義します (オプション)。
  - a. **メトリック操作** エリアで、**追加** をクリックします。  
利用可能なメトリック操作サブダイアログボックスが表示されます。
  - b. **メトリック タイプ** の選択リストで、**カラム** または **行とカラム** をクリックします。
  - c. **メトリック操作** の選択リストで、メトリック操作をクリックします。  
**XXX Metric** エリアが利用可能なメトリック操作の下に表示されます。  
メトリックを定義します。詳細については、[メトリック操作について](#) を参照してください。
  - d. **メトリック定義** エリアで、**作成** をクリックします。
5. レイアウトエリアの下の**更新** をクリックします。

## 関連トピック

- [ヘッダーの定義 \(例\)](#)

## レポート本文の定義

グラフィックのみを表示させるのでないかぎり、レポートの本文を定義します。

1. **レポートビルダ** ダイアログボックスで、**プロパティ** をクリックします。
2. **属性** タブをクリックします。
3. 本文のレイアウトを定義します。
  - a. **カラム数** ボックスに、レポートで使用する列の数を入力します。
  - b. レポートの属性と値のペアの周囲を縁取りする場合は、**境界を含む** チェックボックスを選択します。
  - c. ユーザーがレポートの複数の項目を遷移できるようにするには、**一括操作を含む** チェックボックスを選択します。
4. サブレポートを定義します (オプション)。

サブレポートには、あらかじめ定義済みのレポートから取得されたオブジェクトのセットが表示されます。通常、オブジェクトは添付ファイルです (オブジェクトが **CR**、**タスク**、**オブジェクト** である関係レポート オブジェクトと異なります)。サブレポートの使用時期の詳細については、[レポートの作成](#) を参照してください。

- a. **属性テンプレートに含まれるサブレポート** リストの下の **追加** をクリックします。

**サブレポートの追加** サブダイアログボックスが表示されます。
- b. 生成するサブレポートのタイプに応じて **変更依頼**、**タスク**、**オブジェクト** のいずれかをクリックします。

この操作により、**レポート選択** リストに正しい選択肢が設定されます。
- c. **レポート選択** リストで、生成するレポートをクリックします。

**クエリの定義** ダイアログボックスが表示されます。
- d. **クエリの定義** サブダイアログボックスで、サブレポート用のクエリを作成します。

レポート生成対象のオブジェクトのタイプに対応するキーワードを必ず含めてください。たとえば、**CR**、**タスク**、**オブジェクト** のレポートを生成するには、それぞれ `%problem_number`、`%task_number`、`%cvid` をクエリ文字列に含めます。

5. 本文メトリック操作を定義します（オプション）。
  - a. メトリック操作エリアで、**追加**をクリックします。  
利用可能なメトリック操作サブダイアログボックスが表示されます。
  - b. **メトリックタイプ**の選択リストで、**行**をクリックします。
  - c. **メトリック操作**の選択リストで、メトリック操作をクリックします。  
**XXX Metric** エリアが**利用可能なメトリック操作**の下に表示されます。  
メトリックを定義します。詳細については、[メトリック操作について](#)を参照してください。
  - d. メトリック定義エリアで、**作成**をクリックします。
6. レイアウト エリアの下の**更新**をクリックします。

#### 関連トピック

- [本文の定義 \(例\)](#)

## フッターの定義

レポートにフッターを入れる場合は、フッターを定義します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. フッタータブをクリックします。
3. フッターレイアウトを定義します。
  - a. レポートのタイトルを表示する場合は、**タイトル**チェックボックスを選択します。  
タイトルは、レポート生成前にユーザーが付与する名前です。
  - b. 日付を表示する場合は、**日付**チェックボックスを選択します。
  - c. レポート項目数を表示する場合は、**オブジェクトカウント**チェックボックスを選択します。
  - d. レポート名を表示する場合は、**レポート名**チェックボックスを選択します。
  - e. クエリ名を表示する場合は、**クエリ名**チェックボックスを選択します。
  - f. クエリ文字列を表示する場合は、**クエリストリング**チェックボックスを選択します。
4. フッターメトリック操作を定義します（オプション）。
  - a. **メトリック操作**エリアで、**追加**をクリックします。  
利用可能なメトリック操作サブダイアログボックスが表示されます。
  - b. **メトリックタイプ**の選択リストで、**カラム**または**行とカラム**をクリックします。
  - c. **メトリック操作**の選択リストで、メトリック操作をクリックします。  
**XXX Metric** エリアが**利用可能なメトリック操作**の下に表示されます。  
メトリックを定義します。詳細については、[メトリック操作について](#)を参照してください。
  - d. **メトリック定義**エリアで、**作成**をクリックします。
5. レイアウトエリアの下の**更新**をクリックします。

## 関連トピック

- [フッターの定義 \(例\)](#)

## チャートをレポートに追加

レポートにチャートを入れる場合は、イメージテンプレートを定義します。

1. **レポートビルダ** ダイアログボックスで、**プロパティ**をクリックします。
2. **イメージ**タブをクリックします。
3. **レイアウト**で、**追加**をクリックします。

仮のチャート名 `_New_Chart` がサブダイアログの**レポートに含まれるチャート**ボックスに表示されます。

4. チャートを定義します。
  - a. **タイトル**ボックスで、`_New_Chart` 文字列を選択し、チャート名を入力します。  
タイトルが**レポートに含まれるチャート**リストに表示されます。
  - b. **タイプ**リストでチャートタイプをクリックします。
  - c. **ツール**リストでツールをクリックします。
  - d. **属性**リストで、チャートの属性をクリックします。
  - e. **第2属性**リストで、必要に応じてチャートの属性をクリックします。
  - f. **幅 (ピクセル)**ボックスに図の幅を入力するか、デフォルト値をそのまま使用します。
  - g. **高さ (ピクセル)**ボックスに図の高さを入力するか、デフォルト値をそのまま使用します。
5. **更新**をクリックします。

### 関連トピック

- [チャートをレポートに追加 \(例\)](#)

## グループ化の定義

レポートの結果をグループ化する場合は、属性グループを定義します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. グループ化タブをクリックします。
3. グループ化レイアウトを定義します。
  - a. グループ化リストで、グループ化の基準となる属性をクリックします。たとえば、CRを検索し、**product\_name**属性を使用してグループ化すると、同じ製品名のCRがレポートでひとまとめに表示されます。
  - b. レポートにグループの項目数を表示する場合は、**グループ カウントを含む**チェックボックスを選択します。
  - c. レポート結果のグループ化に使用する属性をレポートに表示する場合は、**グループ 値を含む**チェックボックスを選択します。
4. グループのチャートを選択または作成します（オプション）。

1つ以上のチャートを選択するか、以下の手順に従ってチャートを追加します。

  - a. **グループ化テンプレートに含まれるチャート下の追加**をクリックします。  
チャートレイアウトの**グループ化サブダイアログボックス**が表示されます。  
仮のチャート名 `_New_Chart` がサブダイアログの**レポートに含まれるチャート**ボックスに表示されます。
  - b. **タイトル**ボックスで、`_New_Chart`文字列を選択し、チャート名を入力します。
  - c. **タイプ**リストでチャートタイプをクリックします。
  - d. **ツール**リストでツールをクリックします。
  - e. **属性**リストで、チャートの属性をクリックします。
  - f. **第2属性**リストで、必要に応じてチャートの属性をクリックします。
  - g. **幅（ピクセル）**ボックスに図の幅を入力するか、デフォルト値をそのまま使用します。
  - h. **高さ（ピクセル）**ボックスに図の高さを入力するか、デフォルト値をそのまま使用します。
  - i. **更新**をクリックします。  
チャートのタイトルが**グループ化テンプレートに含まれるチャート**リストに表示されます。

5. グループ化メトリック操作を定義します (オプション)。
  - a. メトリック操作エリアで、**追加**をクリックします。  
利用可能なメトリック操作サブダイアログボックスが表示されます。
  - b. メトリックタイプ**の選択**リストで、**カラム**または**行とカラム**をクリックします。
  - c. メトリック操作**の選択**リストで、メトリック操作をクリックします。  
**XXX Metric** エリアが**利用可能なメトリック操作**の下に表示されます。  
メトリックを定義します。詳細については、[メトリック操作について](#)を参照してください。
  - d. メトリック定義エリアで、**作成**をクリックします。
6. レイアウト エリアの下の**更新**をクリックします。

#### 関連トピック

- [グループ化の定義 \(例\)](#)

## ソートの定義

レポートの結果をソートする場合は、属性ソートを定義します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. ソートタブをクリックします。
3. 最大3つの属性の値に基づき、項目をレポートに表示する順序を選択します。

**注記：**グループ化属性はこのタブで選択した属性に優先します。

- a. 属性リストで属性をクリックします。
- b. ソートタイプリストで、属性のタイプをクリックします。
- c. 方向リストで、昇順または降順をクリックします（たとえば、項目を属性値によって昇順に表示するには、昇順をクリックします）。

## 関連トピック

- [ソートの定義 \(例\)](#)

## 関係レポートの作成

関係レポートの定義により、関連 CR、タスク、オブジェクトの情報のレイアウトと内容が決まります。関係レポートは、関連の親 CR に続いてレポートに「埋め込まれ」ます。

**注記：**メイン タブとグループ化タブは関係レポートでは使用できません。また、関係レポートには固有のクエリはありません。

1. レポートビルダダイアログボックスを表示します。
2. [関係レポートの定義](#)を行います。
3. レポートリストで、関係レポート名をクリックします。
4. [関係レポート一般プロパティの定義](#)を行います。
5. [ヘッダーの定義](#)を行います。これは、各関係レポート上部に表示される情報です。
6. [レポート本文の定義](#)を行います。これは、関係レポート本文に表示される情報です。
7. [フッターの定義](#)を行います。これは、各関係レポート下部に表示される情報です。
8. [チャートをレポートに追加](#)します。これは、関係レポートの下部に表示されます。
9. [ソートの定義](#)を行います。ソートによりレポートに項目を表示する順序が決定します。
10. レポートをインストールする準備ができました。[レポートのインストール](#)を参照してください。

## 関係レポートの定義

関連オブジェクトのレポートを生成する場合は、関係レポートを定義します。

1. サブボタンバーで、**関係レポートの追加**をクリックします。  
関係レポートの定義ダイアログボックスが表示されます。
2. レポート名ボックスに**関係レポート名**を入力します。
3. レポートタイプリストで、**変更依頼**、**タスク**、**オブジェクト**のいずれかをクリックします。
4. 関係を指定します。既存の関係を**選択**リストで、関係レポート項目の親項目との関係をクリックします。関係として、**Associated Task(s)**、**Attachment(s)**、**Duplicate of** があらかじめ定義されています。CR Process で関係属性を作成することにより、新たに関係を作成できます。関係が**レポート関係**ボックスに表示されます。

または、関係名を**レポート関係**ボックスに入力します。入力できる関係タイプの詳細については、Rational Synergy ヘルプの relate コマンドに関する説明を参照してください。

5. **更新**をクリックします。

### 関連トピック

- [関係レポートの作成 \(例\)](#)

## 関係レポート一般プロパティの定義

関係レポート名や、レポートに表示するオブジェクトのタイプなど、関係レポート一般プロパティを定義します。

1. **レポート可能属性**リストで、関係レポートに表示する属性を選択します。  
属性の準備と設定の詳細については、[アドミン ヘルプ](#)を参照してください。
2. **更新**をクリックします。

### 関連トピック

- [関係レポート一般プロパティの定義 \(例\)](#)

## レポートのインストール

システム レポートを使用できるようにするには、レポートのパッケージを作成し、インストールしなければなりません。

レポートをインストールするには、以下の手順を行います。

1. サブタンバーの**保存**をクリックします。
2. このレポートの旧バージョンをアンインストールする場合は、サブタンバーの**アンインストール**をクリックします。

この操作により、レポート パッケージが**パッケージ インストーラ** タブの**インストール済みパッケージ** リストから削除されます。

3. ボタンバーの**インストール**をクリックします。

この操作により、レポート パッケージがインストール済みパッケージのリストとシステム レポートとフォーマットのユーザー リストに追加されます。

### 関連トピック

- [レポートの保存とインストール \(例\)](#)

## レポート作成例

以下に、製品名が **hammer**、**saw**、**drill** である、すべての解決済み CR について、タスク関係レポートを含めた CR レポートを作成する手順を説明します。CR は製品名によってグループ化され、次に依頼タイプによってソートされます。この例は、製品に添付される *dev\_process\_j* を使用します。

この例を試すには、以下を実行する必要があります。

1. **hammer**、**saw**、**drill** を **product\_name** の値をリストボックス属性に追加します。  
属性設定の詳細については、[アドミンヘルプ](#)を参照してください。
2. **hammer**、**saw**、および **drill** の製品名を使用して CR を作成します。
3. CR の一部に関連タスクを作成します。
4. 関連タスクを完了します。
5. CR の完了日付を設定します。
6. CR を「完了」状態に遷移させます。

### 関連トピック

- [レポートの作成 \(例\)](#)
- [関係レポートの作成 \(例\)](#)
- [レポートの保存とインストール \(例\)](#)

## レポートの作成 (例)

CR のレポートを定義します。

1. [Rational Change セッションの開始](#)を行います。
2. プロセス パッケージをまだインストールしていない場合はインストールします。  
たとえば、dev\_process\_j という CR Process をインストールします。詳細については、[アドミン ヘルプ](#)を参照してください。
3. アクションパネルで、**レポート ビルダ**をクリックします。  
**レポート ビルダ** ダイアログボックスが開き、**レポート ファイルの選択**サブダイアログボックスが表示されます。
4. レポート名を作成します。  
新しいレポート名を**新規レポートファイル**ボックスに入力し(xml ファイル名拡張子も含めて)、**作成**をクリックします。
5. [クエリの定義 \(例\)](#)を行います。
6. [一般プロパティの定義 \(例\)](#)を行います。
7. [使用するテンプレートの選択 \(例\)](#)を行います。
8. [ヘッダーの定義 \(例\)](#)を行います。これは、レポート上部に表示される情報です。
9. [本文の定義 \(例\)](#)を行います。これは、レポート本文に表示される情報です。
10. [フッターの定義 \(例\)](#)を行います。これは、レポート下部に表示される情報です。
11. [チャートをレポートに追加 \(例\)](#)します。
12. [グループ化の定義 \(例\)](#)を行います。
13. [ソートの定義 \(例\)](#)を行います。
14. [関係レポートの作成 \(例\)](#)を行います。
15. 作成中のレポートを展開する場合は、[レポートの保存とインストール \(例\)](#)を参照してください。

## クエリの定義（例）

製品名が **hammer**、**saw**、**drill** のいずれかである解決済み CR を検索するクエリを定義します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、**クエリの定義**をクリックします。

**クエリの定義**ダイアログボックスが表示されます。

2. クエリ条件を選択します。

製品 **hammer**、**saw**、**drill** のすべての解決済み CR を検索します。

被演算子、演算子、値を選択し、適切なボタンをクリックします。クエリが完成するまでこのステップを繰り返します。クエリ全体またはクエリの一部を**クエリ ストリング**ボックスに入力することもできます。以下のクエリ文字列が必要です。

```
(cvtype='problem')
and
((product_name='drill') or (product_name='hammer') or
(product_name='saw'))
and
(crstatus=' 解決 ')
```

3. **更新**をクリックします。

## レポートの作成

下図はクエリ定義の例です。

IBM Rational Change

ホーム (H) | アドミニストレーション (A) | ライフサイクル エディタ (L) | レポートビルダ (R) | ヘルプ (H) | 終了 (X)

レポートビルダ Tools.xml 保存 クローズ インストール アンインストール 2

レポート: New Report ▼ プロパティ クエリの定義 関係レポートの追加 関係レポートの削除

クエリの定義

属性: CR ID ▼

オペレーター: が次と等しい ▼

値:  追加

( And Or Not ) 最後の操作をアンド クリア

クエリ スtring:

```
{cvtype='problem'} and ({product_name='drill'} or {product_name='hammer'} or {product_name='saw'}) and {crstatus='解決'}
```

更新 クローズ

## 一般プロパティの定義（例）

レポートが変更依頼のレポートであること、およびHTML フォーマットであることの指定を含め、レポート一般プロパティを定義します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、**プロパティ**をクリックします。
2. **一般**タブをクリックします。
3. レポート一般プロパティを定義します。
  - a. 名前ボックスに「Resolved CRs for hardware」と入力します。
  - b. タイプリストで**変更依頼**をクリックします。
  - c. スタイルリストで、**ブロック**をクリックします。
  - d. フォーマットリストで、**HTML**をクリックします。
  - e. 詳細ボックスに、レポートの説明、たとえば「Report on all resolved CRs for hammer, saw, and drill products」と入力します。
4. HTML レポートに再読み込みボタンを表示するために**再読み込み**チェックボックスを選択します。
5. クエリ制限と文字列制限のデフォルト値をそのまま使用します。
6. レポート可能属性リストで、レポートに表示する属性を選択します。

属性タブで**境界を含む**を選択します。これにより、属性の間に線を入れる必要がなくなります。

**CR ID**、**Synopsis**、**Description** の各属性は、新規レポート作成時、自動的に**選択された属性**リストに含められます。

以下の属性も追加します。

**登録日時 (entry\_date)**

**作業完了日 (resolution\_date)**

**CR タイプ (request\_type)**

**重要度 (severity)**

**製品名 (product\_name)**

**担当者 (resolver)**

**problem\_synopsis** と **problem\_description** について**カラム拡張**チェックボックスを選択します。

7. **更新**をクリックします。

## レポートの作成

下図は一般プロパティ定義の例です。

The screenshot shows the 'Report Builder' window in IBM Rational Change. The 'Report Properties' tab is active, displaying configuration options for a report named 'Resolved CRs for hardware'. The report type is 'Change Dependency', and the format is 'HTML'. The 'Details' field contains the text: 'Report on all resolved CRs for hammer, saw, and drill products'. On the right, the 'Reportable Properties' list includes fields like 'Requester', 'Requester Email', and 'Requester Phone Number'. The 'Selected Properties' list on the far right shows 'Requester' is selected.

IBM Rational Change

ホーム (H) | アドミニストレーション (A) | ライフサイクル エディタ (E) | レポートビルダ (R) | ヘルプ (H) | 終了 (X)

レポートビルダ Tools.xml 保存 クローズ インストール アンインストール 2

レポート: New Report ▼ プロパティ クエリの定義 関係レポートの追加 関係レポートの削除

一般 メイン ヘッダー 属性 フッター イメージ グループ化 ソート

レポート プロパティ

名前: Resolved CRs for hardware

タイプ: 変更依頼 ▼

スタイル: ブロック ▼ ページ分割:

フォーマット: HTML ▼ 項目/ページ (5-50): 25

再読み込み:

クエリ制限: 100

文字列制限: 3000

詳細

Report on all resolved CRs for hammer, saw, and drill products

レポート可能属性

- 技術サポートによる承認
- 担当者
- 提出者
- 提出者のEメール
- 提出者のFAX番号
- 提出者の会社
- 提出者の住所
- 提出者の組織名
- 提出者の電話番号
- 提出者名
- 最終修正ユーザー
- 最終修正時

選択された属性

- CR ID
- 概要
- 詳細
- 登録日時
- 作業完了日
- CRタイプ
- 重要度
- 製品名
- 担当者

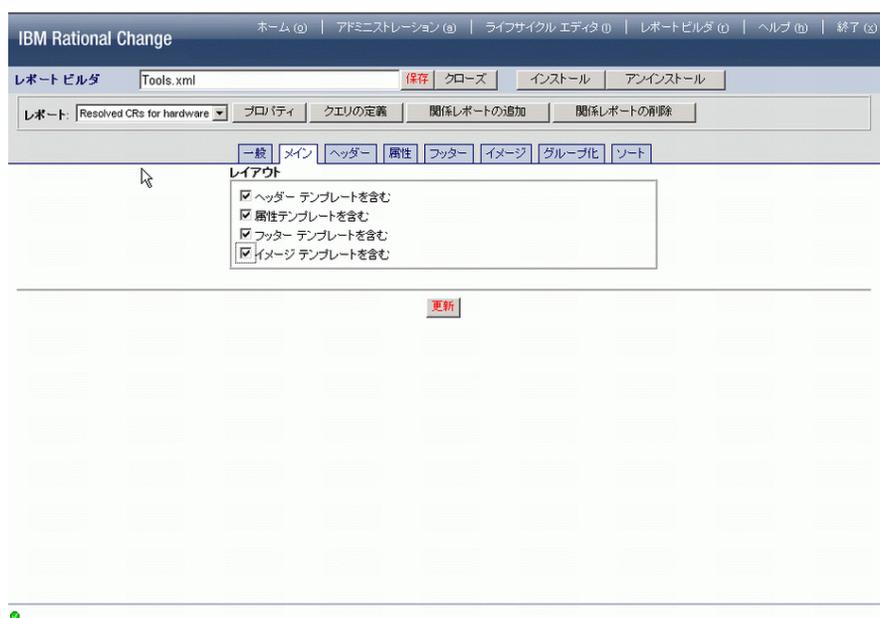
更新

## 使用するテンプレートの選択（例）

レポートにヘッダー、フッター、本文、イメージを追加します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. メインタブをクリックします。
3. レポートに使用するテンプレートを選択します。
  - a. ヘッダーテンプレートを含むチェックボックスを選択します。
  - b. 属性テンプレートを含むチェックボックスを選択します。
  - c. フッターテンプレートを含むチェックボックスを選択します。
  - d. イメージテンプレートを含むチェックボックスを選択します。
4. 更新をクリックします。

下図はテンプレート定義追加の例です。



### ヘッダーの定義（例）

タイトル、日付、オブジェクト数、レポート名をヘッダーに含めます。

1. レポートビルダダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. ヘッダータブをクリックします。
3. ヘッダーレイアウトを定義します。
  - a. タイトルチェックボックスを選択します。
  - b. 日付チェックボックスを選択します。
  - c. オブジェクトカウントチェックボックスを選択します。
  - d. レポート名チェックボックスを選択します。
4. CR解決の平均時間（分）を計算するヘッダーメトリック操作を定義します。
  - a. メトリック操作エリアで、追加をクリックします。

利用可能なメトリック操作サブダイアログボックスが表示されます。
  - b. メトリックタイプの選択リストで、行とカラムをクリックします。
  - c. メトリック操作の選択リストで、差分の平均をクリックします。

行とカラムの差分平均メトリックエリアが利用可能なメトリック操作の下に表示されます。
  - d. ラベルボックスに、「Average Time to Resolve」と入力します。
  - e. 差分を検索リストで、resolution\_date をクリックします。
  - f. からリストで、entry\_date をクリックします。
  - g. データタイプリストで日付をクリックします。
  - h. 日付単位リストで分をクリックします。
  - i. メトリック定義エリアで、作成をクリックします。
5. レイアウトエリアの下の更新をクリックします。

下図はヘッダ定義の例です。



### 本文の定義（例）

本文には、CR の解決に要する時間を表示します。

1. レポートビルダダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. 属性タブをクリックします。
3. 本文のレイアウトを定義します。
  - a. カラム数ボックスで、デフォルト値（2）をそのまま使用します。
  - b. レポートの属性と値のペアの周囲を縁取りする場合は、境界を含むチェックボックスを選択します。
  - c. 一括操作を含むチェックボックスが選択されている場合は、解除します。  
この例では、レポートの CR は解決済みです。
4. 本文メトリック演算を定義します。詳細については、[メトリック操作について](#)を参照してください。
  - a. メトリック操作エリアで、追加をクリックします。  
利用可能なメトリック操作サブダイアログボックスが表示されます。
  - b. メトリックタイプの選択リストで、行をクリックします。
  - c. メトリック操作の選択リストで、差分をクリックします。  
行差分メトリック エリアが利用可能なメトリック操作の下に表示されます。
  - d. ラベル ボックスに、「Time to Resolve」と入力します。
  - e. 差分を検索リストで、resolution\_date をクリックします。
  - f. から リストで、entry\_date をクリックします。
  - g. データ タイプ リストで日付をクリックします。
  - h. 日付単位リストで分をクリックします。
  - i. メトリック定義エリアで、作成をクリックします。
5. レイアウト エリアの下の更新をクリックします。

下図は本文定義の例です。

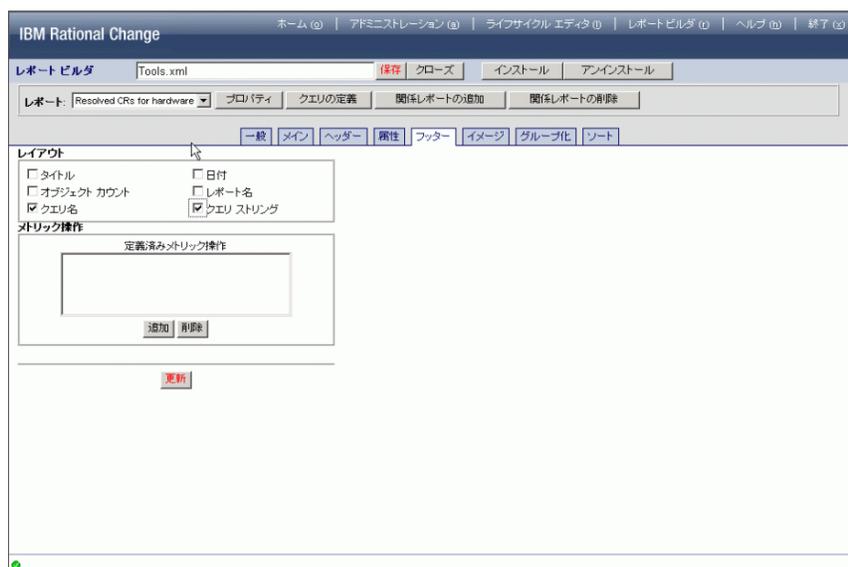
The screenshot shows the 'IBM Rational Change' report builder window. The title bar includes 'IBM Rational Change' and a menu with 'ホーム (H)', 'アドミニストレーション (A)', 'ライフサイクル エディタ (E)', 'レポートビルダ (R)', 'ヘルプ (H)', and '終了 (X)'. The main window has a 'レポートビルダ' (Report Builder) tab and a file name 'Tools.xml'. Below the title bar are buttons for '保存' (Save), 'クローズ' (Close), 'インストール' (Install), and 'アンインストール' (Uninstall). A 'レポート:' (Report:) dropdown is set to 'Resolved CRs for hardware', with buttons for 'プロパティ' (Properties), 'クエリの定義' (Define Query), '関係レポートの追加' (Add Related Report), and '関係レポートの削除' (Remove Related Report). A tabbed interface shows '一般' (General) selected, with other tabs for 'メイン' (Main), 'ヘッダー' (Header), '属性' (Attributes), 'フッター' (Footer), 'イメージ' (Image), 'グループ化' (Grouping), and 'ソート' (Sorting). The 'レイアウト' (Layout) section has 'カラム数:' (Number of Columns) set to '2', '境界を含む:' (Include Borders) checked, and '一括操作を含む:' (Include Bulk Operations) unchecked. The 'サブレポート' (Sub-report) section has a '属性テンプレートに含まれるサブレポート' (Sub-report included in attribute template) dropdown set to 'レポート選択' (Select Report) and '追加' (Add) / '削除' (Remove) buttons. The 'メトリック操作' (Metric Operations) section has a '定義済みメトリック操作' (Defined Metric Operation) dropdown set to 'Time to Resolve' and '追加' (Add) / '削除' (Remove) buttons. The '利用可能なメトリック操作' (Available Metric Operations) section has a '行' (Row) dropdown and a '差分' (Difference) dropdown. The '行差分メトリック' (Row Difference Metric) section has a 'ラベル:' (Label:) text box containing 'Time to Resolve'. The '差分を検索' (Search for Difference) section has 'resolution\_date' and 'entry\_date' dropdowns. The 'データタイプ' (Data Type) section has '日付' (Date) and '日付単位' (Date Unit) dropdowns set to '日' (Day) and '分' (Minute) respectively. At the bottom are '更新' (Update) and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

## フッターの定義 (例)

クエリ名とクエリ文字列をフッターに含めます。

1. **レポートビルダ** ダイアログボックスで、**プロパティ**をクリックします。
2. **フッター** タブをクリックします。
3. フッター レイアウトを定義します。
  - a. クエリの名前を表示する場合は、**クエリ名**チェックボックスを選択します。
  - b. クエリ文字列を表示する場合は、**クエリ ストリング** チェックボックスを選択します。
4. **更新**をクリックします。

下図はフッター定義の例です。



## チャートをレポートに追加（例）

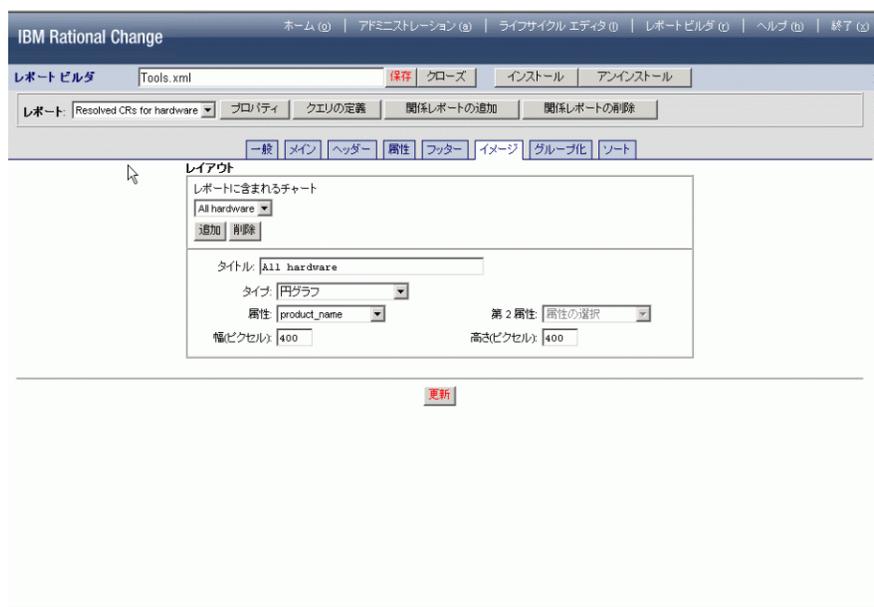
各製品の解決済み CR の数を示すチャートを追加します。

1. レポートビルダ ダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. イメージタブをクリックします。
3. レイアウトで、追加をクリックします。

仮のチャート名 `_New_Chart` がサブダイアログのレポートに含まれるチャートボックスに表示されます。

4. チャートを定義します。
  - a. タイトルボックスで、`_New_Chart_` 文字列を選択し、「All hardware」と入力します。
  - b. タイプリストで円グラフをクリックします。
  - c. 属性リストで、`product_name` をクリックしてチャート製品を作成します。
  - d. 幅（ピクセル）ボックスと高さ（ピクセル）ボックスで、デフォルト値（400 ピクセル）をそのまま使用します。
5. 更新をクリックします。

下図はイメージ定義の例です。

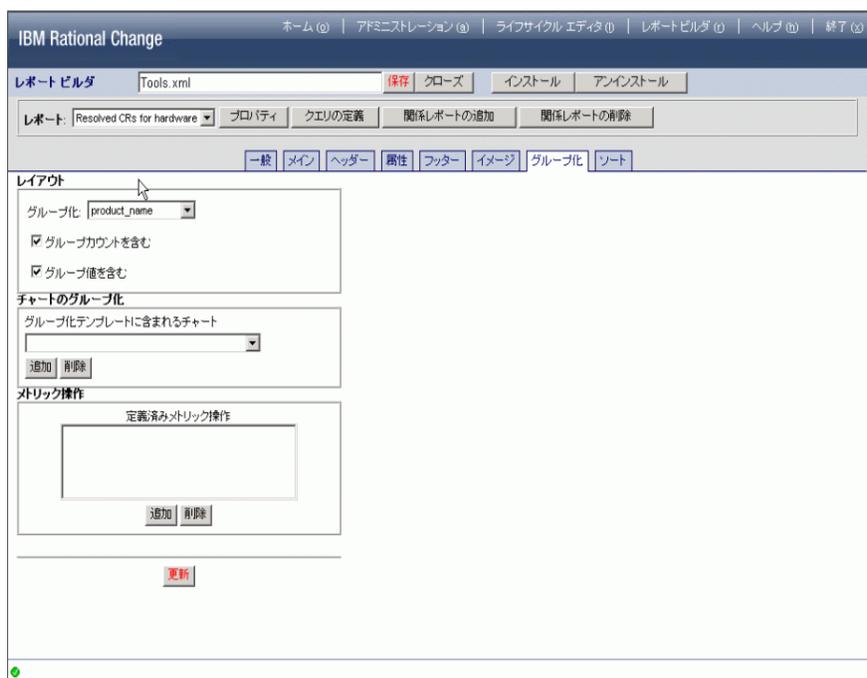


## グループ化の定義（例）

結果を製品名によってグループ化します。

1. レポートビルダ ダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. グループ化タブをクリックします。
3. グループ化レイアウトを定義します。
  - a. グループ化リストで、product\_name をクリックします。
  - b. グループカウントを含むチェックボックスを選択します。
  - c. グループ値を含むチェックボックスを選択します。
4. 更新をクリックします。

下図はグループ化定義の例です。

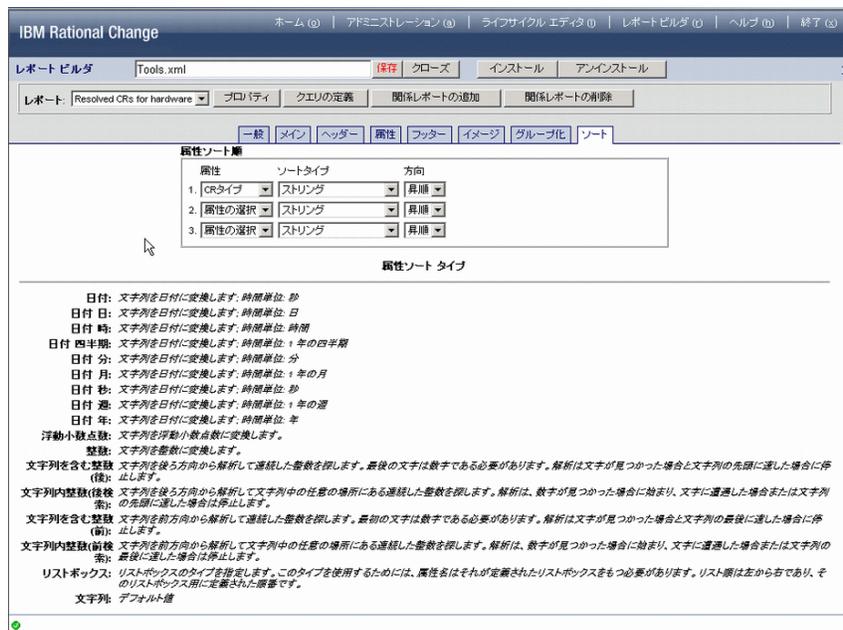


## ソートの定義（例）

結果を依頼タイプによってソートします（結果のグループ化後）。

1. レポートビルダダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
2. ソートタブをクリックします。
3. レポートに項目を表示する順序を選択します。
  - a. 属性リストで **request\_type** をクリックします。
  - b. ソートタイプリストで**ストリング**をクリックするか、またはリストボックスの順序を維持するには **リストボックス**をクリックします。
  - c. 方向リストで**昇順**を選択して、製品名によって項目をアルファベット順に表示します。

下図はソート定義の例です。



### 関係レポートの作成（例）

関連タスクの関係レポートを定義します。

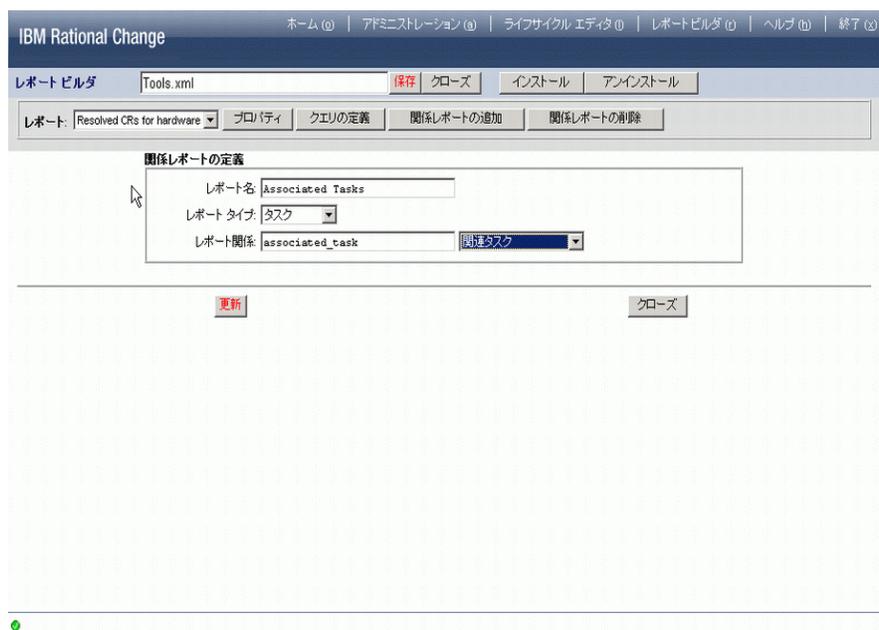
1. レポートビルダダイアログボックスを表示します。
2. [関係レポートの定義（例）](#)を行います。
3. レポートリストで、関係レポート名をクリックします。
4. [関係レポート一般プロパティの定義（例）](#)を行います。
5. [関係レポートヘッダーの定義（例）](#)を行います。これは、各関係レポート上部に表示される情報です。
6. 関係レポート本文に表示する情報を定義します。  
ステップについては、[関係レポート本文の定義（例）](#)を参照してください。

## 関係レポートの定義（例）

関連タスクを表示する関係レポートを定義します。

1. サブボタンバーで、**関係レポートの追加**をクリックします。  
関係レポートの定義ダイアログボックスが表示されます。
2. レポート名ボックスに「Associated Tasks」と入力します。
3. レポートタイプリストで、**タスク**をクリックします。
4. 既存の関係リストで、**関連タスク**をクリックします。  
関係がレポート関係ボックスに表示されます。
5. **更新**をクリックします。

下図は関係レポート一般プロパティ定義の例です。



## 関係レポート一般プロパティの定義（例）

表示するタスク属性など、関係レポートの一般プロパティを定義します。

1. レポート リストで、新規関係レポート名をクリックします。  
一般タブが表示されます。関係レポートプロパティがすでに定義されています。

2. レポート可能属性リストで、関係レポートに表示する属性を選択します。

以下の属性を追加します。

タスク ID (task\_ID)

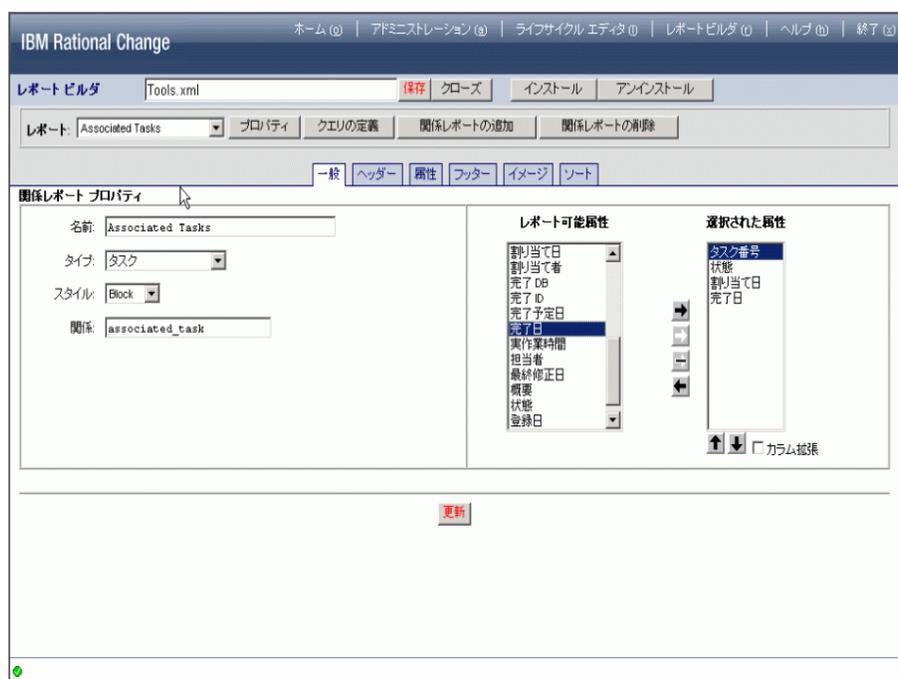
状態 (status)

割り当て日 (assignment\_date)

完了日 (completion\_date)

3. 更新をクリックします。

下図は関係レポート一般プロパティ定義の例です。



## 関係レポート ヘッダーの定義 (例)

タイトル、日付、オブジェクト数、レポート名をヘッダーに含めます。

1. レポート リストで、新規関係レポート名をクリックします。
2. レポート ビルダ ダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
3. ヘッダー タブをクリックします。
4. ヘッダー レイアウトを定義します。
  - a. タイトル チェックボックスを選択します。
  - b. 日付チェックボックスを選択します。
  - c. オブジェクト カウント チェックボックスを選択します。
  - d. レポート名チェックボックスを選択します。
5. 更新をクリックします。

下図は関係レポートのヘッダー定義の例です。



## 関係レポート本文の定義（例）

タスクを表示するレイアウトを定義します。

1. レポート リストで、新規関係レポート名をクリックします。
2. レポート ビルダ ダイアログボックスで、プロパティをクリックします。
3. 属性タブをクリックします。
4. 境界を含むを選択します。
5. 更新をクリックして設定を保存します。



## レポートの保存とインストール（例）

カスタム レポートを使用できるようにするには、レポートのパッケージを作成し、インストールする必要があります。

1. ボタンバーの**保存**をクリックします。
2. ボタンバーの**インストール**をクリックします。  
この操作により、レポートパッケージがインストール済みパッケージのリストとシステムレポートのユーザー リストに追加されます。
3. レポートを生成します。
  - a. ユーザーとしてセッションを開始します。
  - b. アクションパネルで、**レポート** ボタンをクリックします。
  - c. **レポート** フォルダから、**システム**をクリックします。
  - d. **システム** レポート リストで、新規レポートをクリックし、次に**実行**をクリックします。
  - e. レポートを表示します。

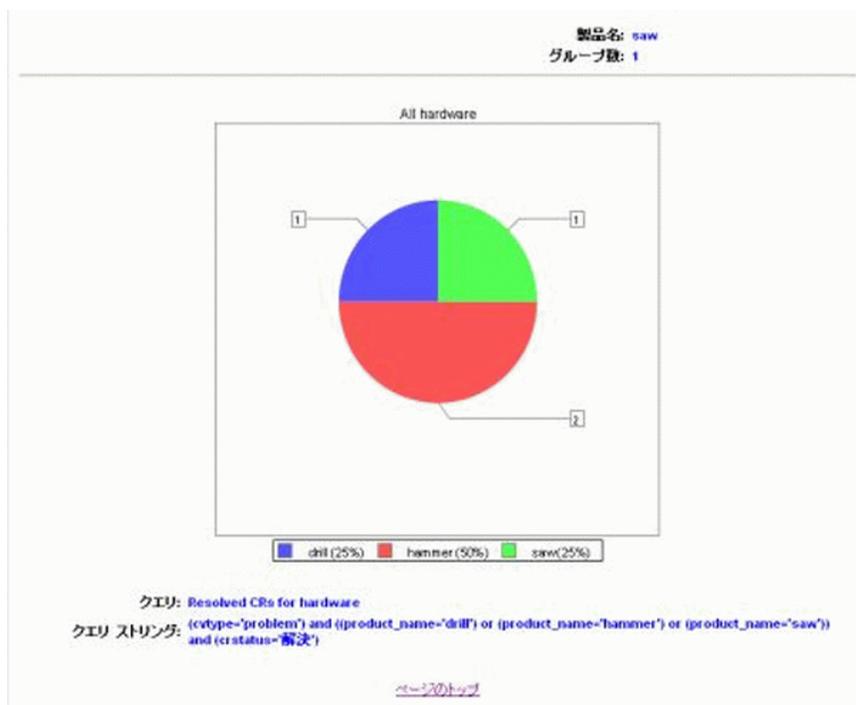
以下の図に、この手順によって生成されたカスタムレポートの上部と下部を示します。

タイトル: タイトルが定義されていません。  
 カウント: 4  
 日付: 11/12/2008 16:38:51  
 レポート: Resolved CRs for hardware

メトリック操作	
Average Time to Resolve 9.0 minutes	
CR ID <a href="#">11</a>	
概要 CR for drill	
詳細 CR for drill	
登録日時 11/12/2008 16:27:14	作業完了日 11/12/2008 16:37:53
CRタイプ 個能伝送	重要度 高レベル
製品名 drill	担当者 梶田, 玉祐 (ccn_root)
メトリック操作	
Time to Resolve 11.0 minutes	

製品名: drill  
 グループ数: 1

CR ID <a href="#">10</a>	
概要 CR for hammer2	
詳細 CR for hammer2	
登録日時 11/12/2008 16:26:56	作業完了日 11/12/2008 16:37:00
CRタイプ アクションアイテム	重要度 最重要
製品名 hammer	担当者 梶田, 玉祐 (ccn_root)
メトリック操作	
Time to Resolve 11.0 minutes	



---

## レポートの詳細

## メトリック操作について

メトリック操作とは、属性値による計算のことです。計算の結果（メトリック）は、レポートに含まれます。

メトリック操作オプションは、**ヘッダー タブ**、**フッター タブ**、**属性タブ**、**グループ化タブ**でのみ使用できます。

メトリック操作タイプは、**行**、**行とカラム**のいずれかです。Rational Change では、1つの選択されたセット内の各項目（CR、タスク、またはオブジェクト）の指定された属性に対して"行"操作（演算）を行います。また、まず各項目の属性に対して操作してから、次に全項目にわたって操作する、"行とカラム"操作も行います。

下表はタスクのセットについての行とカラム例を示します。最後の項目 **Attribute\_M** は、タスク完了に要する時間を示します。

項目	属性 1	属性 2	属性 3	...	Attribute_M (属性 M)
1	タスク 1	割り当て日付 1	完了日付 1	...	attribute_M 1
2	タスク 2	割り当て日付 2	完了日付 2	...	attribute_M 2
...	...	...	...	...	...
N	タスク N	割り当て日付 N	完了日付 N	...	attribute_M N

以下に、上記の表に基づく行、行とカラム メトリック操作の例を示します。

- 差分（行）  
タスクの完了にかかる時間を計算します。このためには、タスクの「完了日付け／時間」から「割り当て日付け／時間」を差し引きます。
- 最大値（カラム）  
最後に完了したタスクを特定します。つまり最新の完了日付（**属性 3**）を持つタスクです。
- 差分の平均（行とカラム）  
すべてのタスクの完了にかかる時間の平均を計算します。このためには、**属性 3** から**属性 2**を差し引き、その平均を出します。

使用できるメトリック操作のリストは、表示タブによって異なります。**ヘッダー タブ**と**フッター タブ**では、レポートのすべての項目について、各レポートの上部と下部のセクションの内容を定義します。したがってこれらのタブでは、すべての項目にわたって実行されるカラムメトリック操作と行とカラムメトリック操作を使用できます。**属性タブ**では、各項目が個別に表示されるレポート本文の内容が定義されます。したがって、行メトリック操作しか使用できません。**グループ化タブ**では、項目グループ化がそれぞれの属性値に基づいて定義されます。したがって、カラムメトリック操作と行とカラムメトリック操作を使用できません。

**ヘッダーとフッター** タブはメトリック操作をグループ化可能で、それにより行の幅が決まります。**属性**タブは個別行のみに有効です。

**注記**：実行する計算に属性がない場合、属性を定義し、**CR Process** でレポート可能にする必要があります。更新した **CR Process** を保存、作成、インストールし、次に属性をレポートビルダの**一般**タブで**レポート内属性**リストに追加します。

レポートビルダには 30 以上のメトリック操作があります。メトリック演算については、『**IBM Rational Change Customization Reference**』の "PTReport" Wslets セクションを参照してください。



# 索引

## I

IBM Rational ソフトウェア サポート 6

## あ

アクションパネル 2

## い

一括遷移、許可 22

イメージ、レポートに追加 25

## お

オブジェクト

サブレポート内 22

レポート 19

## か

関係、定義 30

関係レポート

定義方法 29

内容の定義 31

名前 30

## き

キーワード、使用方法 22

## く

クエリ

サブレポートの定義 22

グループ数 26

## さ

サブレポート

定義 22

## し

終了操作 3

状態インジケータ 3

新規レポートのインストール 32

新規レポートの命名 17

## せ

セッションの開始 4

## そ

操作

終了 3

ヘルプ 3

ホーム 2

レポートビルダ 3

属性

設定 19

## た

ダイアログパネル

状態インジケータ 3

説明 3

タスク

サブレポート内 22

レポート 19

## ち

チャート、レポートで使用 25

## て

定義

使用されるクエリ 18

チャートツール 26

レポートプロパティ 19

## ふ

- フッター
  - 追加 20
  - 内容の定義 24

## へ

- ページ分割、設定 19
- ヘッダー
  - 追加 20
  - 内容の定義 21
- ヘルプ
  - セクション 5
  - 表示方法 5
- ヘルプ操作 3
- ヘルプ リンク 3
- 変更依頼
  - サブレポート内 22
  - レポート 19

## ほ

- ホーム操作 2

## め

- メトリック操作、使用方法 56

## れ

- レポート
  - 一括遷移の許可 22
  - イメージの使用 25
  - インストール 32
  - 改ページの追加 19
  - 関係レポートの定義 29
  - 旧バージョンの削除 32
  - グループ化の結果 26
  - 計画 16
  - 計算を含める 56
  - ソート順の定義 28
  - 添付ファイルの定義 22
  - 内容の定義 19

ビルド 15

ヘッダーとフッターの定義 20

本文の定義 22

命名方法 17

利用可能リストに追加 32

レイアウトの定義 22

レポートで使用する添付ファイル 22

レポート内容の順序 28

レポート内容をグループ化 26

レポートのソート 28

レポートの作成 15

レポート ビルダ操作 3

レポート例

作成方法 34

要件の設定 33

## ろ

- ログイン 4